

新潟県中越沖地震

「被災地住宅相談キャラバン」に参加しました

(社)東京建築士会 青年委員会
委員長 吉村 昌朋

派遣要請依頼

「キャラバンへ参加の緊急案内をさせていただきます！」8月の東京建築士会青年委員会が開催された時の事務局・小川氏の発言でした。新潟県中越沖地震で被災した建築物について「相談窓口での技術的な対応」および「現場への巡回相談」に参加する為です。急遽、委員会で人員を募り、東京青年委員の山本覚さん(age39)、荘司和樹さん(32)、野口修さん(34)、佐藤朋典さん(28)に、青年OBの美和健一郎さん(43)、吉村(38)を加えた6名の一級建築士が、**東京担当**の8月9日(木)に参加する事となりました。今回は、所属の東京建築士会が、参加日程、参加人数、および参加者プロフィール(住所・氏名・年齢・連絡先・等)を集約して、新潟県建築士会へ伝達しました。今回の相談から生じる自己保証その他の責任は、柏崎市が負います。

「行きます！連れて行ってください！」今年の春に、一級建築士となり東京青年委員会に参加しはじめた、野口、佐藤、両氏の声でした。彼らは雇用されている立場でありながら、緊急に決定された平日の派遣日に参加表明をされました。私は彼らに、建築士としての純粋な気概と意欲を感じました。正直、とても嬉しかったです。建築士の防災ボランティアの活動が「建築士の職能」である！という意識が高まっていくのではないかという期待感を覚えました。それから、忘れてはいけないのが、派遣了承して頂いた雇用主さんです。彼らの決断にも大変感謝しております。本当にありがとうございました。

「保険を除き、全ての費用(飲食・宿泊・交通費・等)は参加者負担となり、後日清算はございません。」キャラバンの今後の活動に不安を覚えます。全国各地で地震が多発している現状を考えると、キャラバンの必要性は言うまでもありません。しかしながら、今回の条件は大変厳しいものでした。建築士会連合会・青年委員長**の木村勇治氏**は、全国青年委員長メールグループにおいて、こう発言しております。「H16中越地震のキャラバンと異なるのは、国交省の予算が確保されていないので費用は一切でないということ。ブロック会や連合会に対しては、建築士会として最低限の交通費程度を支給できないかと確認していますが、決断はすぐにはいかないようです。この様な状況ですが、今回の支援要請に対して、青年建築士として何ができるのか、直面している現実をしっかりと受け止め、建築士が一丸となって、できる限りの最大限の協力をお願い致します。」**建築士会組織**は我々の会費から成り立っている社団法人です。予算は総会で決定されます。用途は建築士会会員一人一人が考え、決定していくべきであると思います。キャラバンは、建築士会が実施して、建築士会会員が従事する活動です。活動費は、組織が決定するものではなく、我々が決定するものであると信じています。上記、青年建築士の意識の高まりをストップさせたくありません。47都道府県、全ての建築士会で青年建築士パワーを突き上げていきたいものです。社会に必要とされる建築士を目指して！

被災地住宅相談キャラバン

被災地(柏崎市)の要請を受けた当該建築士会(新潟県)が実施します。新潟県建築士会は日本建築士会連合会に、相談対応する建築士の派遣要請を行い、各都道府県の建築士が派遣されます。



Asahi.comより掲載

東京担当

関東甲信越建築士会ブロック会、1都9県の各県事務局が事前に調整を行い、8月1日(水)~8月9日(木)の実施期間のうち、日毎に担当県を設定しました。

木村勇治さん(一級建築士)

(社)日本建徳士会連合会・青年委員長
H16新潟県中越地震で応急危険度判定員およびキャラバン隊として協力

(社)建築士会

会員の協力によって、建築士の業務の進歩改善と建築士の品位の保持、向上を図り、建築文化の進展に資することを目的に、都道府県ごとに設立された社団法人

(社)建築士会連合会

昭和27年に都道府県ごとに設立されている建築士会をもって組織し、建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善を図り、広く社会公共の福祉増進に寄与することを目的に設立された社団法人

柏崎市発行「臨時広報」



発行：柏崎市災害対策本部

罹災(りさい)証明

自然災害などにより住家等が破損した場合、その程度を基準に基づき判定し証明するものです。この証明は、保険の請求や税の減免などの手続きに必要とされます。

防災ボランティア登録証

東京都「応急危険度判定員」養成講習会に参加後、登録証が交付されます。



通行証(災害用緊急通行車両証)

災害用緊急通行車両証

平成19年7月10日発行

新潟県柏崎市長 会 田 洋

無料通行券

(災害派遣等従事車両証明書)

災害派遣等従事車両証明書	
発行番号	0
発行年月日	平成19年8月6日
道路名	関越自動車道 越後IC～北陸自動車道 柏崎IC
送り区間	
乗車者名	山村建設設計研究室
所属、氏名	山村 昌 雄
車両登録番号	新潟501 号 3354
備 考	住宅地盤調査
この車両は、災害派遣等従事車両であることを証明する。 平成19年 8月 6日 発行者の職氏名 新潟県都市整備局市営地盤調査課長 金子 裕 夫	

事前準備

「これらの資料を事前に目を通して下さい。」東京建築士会より「キャラバンの実施要領」および「参考資料Q & A集」が配布されました。下記項目が被災地住宅相談の主な対応となっています。また、柏崎市発行の「臨時広報」と「生活再建へのお知らせ」も添付されました。被害状況、避難状況、復興に向けた支援策・対応策、住宅棟に関する資金の助成金、住宅の確保、各問い合わせ先、等が、掲載されています。柏崎市のHPでダウンロード可能でした。事前に被災地の状況を把握する事が大切です。

- 1) 応急危険度判定(赤紙・黄紙・緑紙)の結果について
- 2) 罹災(りさい)証明について
- 3) 修理、補修の依頼先や補助について
- 4) 仮設住宅の入居(補助金の支給、減額)について
- 5) 家屋の解体、処分について
- 6) 地盤(擁壁)崩壊、隣地境界線について
- 7) (窓口相談の場合)実際の住宅をみてほしい

「持参していただくものは、以下のものです。」東京建築士会から案内がきました。現地調査は「徒歩」で行いますので、それなりの対処が必要です。主なものを表記しました。また、個人的な注釈を付けました。

- 1) 防災ボランティア登録証(ストラップにすると利便性向上します。)
- 2) 応急危険度判定員手帳(無資格者も応募可能です。)
- 3) ヘルメット(現場では必ず着用して下さい。)
- 4) 軍手(必須です。)
- 5) 作業着・靴(動きやすいもので問題ありませんが、国家資格者としての印象も大事です。建築士として相応しい服装をお願いします。)
- 6) 筆記用具、クリップボード、メジャー(必須です。)
- 7) 下げ振り、ペンライト(現場巡回相談があるので、持参が望ましい。)
- 8) 雨具(レインコート、折りたたみ傘、両方持参が望ましいです。)
- 9) 携帯電話(可能な限り持参下さい。緊急連絡の場合もあります。)
- 10) 健康保険証のコピー(万が一現地で負傷した際に必要となります。)

「現在の柏崎 IC の乗り降りには、別途、通行証が必要になります。また、車両の高速代金は、東京都発行の往復証明書がある場合、災害派遣対象になり免除されます。申請者には後日、前述2通の証明書をお渡しします。」今回は東京建築士会がまとめて参加者全員の申請手続きを行い、証明書の配布を行いました。出発2日前に証明書が手元に届きました。通行の際、無料通行券を事前コピーし、現金窓口で提出すると円滑に通行できます。交通手段として、深夜バスや、長岡から柏崎間の在来線もありましたが、現地集合時間は7:30です。約4時間の移動時間ですので3:00頃の出発になること、集合場所から判定する地域への移動、等の事情を考慮すると必然的に「車」となります。そしてカーナビは大変便利です。判定地域への案内はほとんどなく、地図渡しのみです。カーナビ搭載車を優先させる事も重要です。

「食事、飲み物、等は現地で調達できないと思って下さい。」同様に東京建築士会からの案内です。派遣時期によって異なりますが、食料が現地で調達できないことが多々あります。食事、水筒、常備薬など各自必要となるものは持参しましょう。今回はコンビニが営業していました。

被災地へ出発～被災地到着

「結構、復旧されている。」長岡 JCT より北陸道に入ると、継続して速度規制がしかれていましたが、8 月初旬の応急危険度判定で訪れた時よりも高速道路の状況は大幅改善されていました。また、柏崎 IC で降りてから集合場所の柏崎市役所までの混雑も多少緩和されているようでした。ただし残念ながら、倒壊家屋の状況は「まだまだ」という感じでした。

「ずいぶん早く到着しましたね。」7:30 の集合時間までは 40 分ほど時間がありましたので、朝食をとる事にしました。M 氏お気に入りのハンバーガーショップです。(余談ですが)彼が以前、新発売の朝食メニューを食した時、そのお味になじめなかったという話を聞き、まさか!という疑念から、山本氏と私はトライする事にしました。(中略)先輩の助言は聞かないといけないと痛感しました。本日の被災地住宅相談の開催場所は、柏崎市中心部の「柏崎小学校」、市の南部の「高田コミュニティセンター」、市の東部の「北条 CC」、刈羽原発近辺、市の北東部の「西山事務所」と「椎谷 CC」の合計 5 箇所。各班のリーダーが事前に選出されており、朝 7:00 より打ち合わせを行って、7:30 集合・説明、8:00 現地へ移動、9:00 相談スタートというスケジュールでした。

作業内容説明～相談開始

「おはようございます。」椎谷 班リーダーの青木です。宜しくお願いします。」各班のリーダーより人員の振り分けがはじまりました。美和氏は「柏崎小学校」、荘司氏は「北条」、野口氏は「西山」、山本氏、佐藤氏、吉村は「椎谷」です。各班で車に乗り合い、現地への移動を開始しました。「椎谷」は市中心部から北東へ 15km 程の距離にある海岸線の町です。海岸線の国道が通行止め迂回でしたので、9:00 ちょうどの到着でした。現地到着後に青木班長より事前説明を受ける予定でしたが、既に相談希望の住民がいらしていたので、即スタートという形になりました。業務内容は「2 人組み体制被災住宅への巡回相談」ですので、取り急ぎペアを決めました。青木班長と及川氏の東京ベテランペア、山本氏と佐藤氏の東京若手ペア、福島県建築士会から 3 泊 4 日で参加された後藤さんと吉村の混合ペアです。

「こちらにお名前とご住所をご記入下さい。」住宅相談のスタートです。

- 1) まずは「住宅相談申し込み一覧表」に名前と住所を記入して頂きます。
- 2) そして「罹災住宅相談記録票」に沿って問診します。プライバシーの確保を希望される方には別の場所に対応します。
- 3) 現場確認の有無を聞きます。もしくは現場確認の必要性を判断します。
- 4) 相談者に現場へ同行願います。
- 5) 現場で調査を行います。時間の目安は概ね 30 分です。話を伺いながら傾斜角度等を確認します。
- 6) 現場調査終了後、相談内容、対応結果をお話します。
- 7) 相談場所への帰りの誘導をお願いします。
- 8) 現場での対応結果を「罹災住宅相談記録票」に記入します。後日再相談になるかもしれないので、今後の円滑なやりとりを考えると、簡易図面を記入する事をお勧めします。
- 9) 班長に「罹災住宅相談記録票」を渡して、集計して頂きます。
- 10) 1) に戻ります。

仮設住宅に入居する被災者(柏崎市)



Asahi.com より掲載

刈羽原発に到着したジャメ団長



Asahi.com より掲載

新潟県柏崎市「椎谷」

日本海に面した「椎谷」は、江戸初期から馬市で栄え、かつては日本三大馬市に数えられた。



柏崎の情報「陽だまり」HP より掲載

傾斜角度等

罹災住宅相談記録票に記載する欄があります。

「住宅相談では以下の点に注意して下さい。」新潟県建築士会・柏崎支部が作成された「建築相談・会場での手引き」からの抜粋です。

- 1) 罹災調査の区分判定等で不安に思う場合、仮設住宅申し込みを勧める。
- 2) 仮設住宅・住宅応急修理制度に関して、市臨時広報を参照・案内する。
- 3) 概算の修理費用に関する質問が難しい場合、即答しなくてもよい。建築組合等への相談をご案内する。柏崎市役所分館3階で、ワンストップ相談対応窓口（各種住宅相談）開設。
- 4) 全の補助は「罹災証明」から始まる。8月17日発行予定。各自が市へ問合せをする。
- 5) 不服がある場合、市へ申し立てができる。写真等の資料準備を勧める。
- 6) 既に工務店などに見積等の依頼をされている場合は、そちらとよく相談する事を勧める。疑問や不信感を持っている場合は、話を伺う。

自衛隊の炊き出しが配られた



Asahi.com より掲載

午前相談終了～昼食

「どうぞ！お食べになって下さい。」正午、椎谷地区に自衛隊の炊き出しが配られていました。相談所と配布場所が同様のコミュニティセンターでしたので、住民の方々のお気持ちで炊き出しを頂く事になりました。ご飯、しめじのお味噌汁、豚じゃぶじゃぶにレタス、厚揚げの煮物、牛乳、という栄養満点の献立でございました。お味がとても良く、大変美味しく頂きました。朝食が朝食だけに比較効果というのもあるのでしょうか（冗談です）。椎名住民の皆さま、暖かい心遣い、誠にありがとうございました。また、自衛隊の皆さま、ご苦労様でございました。ちなみに、当初は当然のこと近くのコンビニに買い出しに行く予定でした。

相談～相談

「築90年の平屋と築50年2階建ての繋ぎのひび割れがすごいよ！傾斜で引き戸が自動ドアになってしまったの。」現場での調査依頼です。傾斜を測定し、倒壊の危険性はないと判断しましたが、今後の余震等によっては予断を許せない状況です。屋根部にも破断や亀裂がある可能性が高いので、雨漏りによる構造材の腐食に注意するよう助言しました。

蔵の壁の大谷石が落下して倉庫の屋根を直撃（柏崎市）



「築10年の住宅で、駐車場の4連引き違い戸が全く動かないの。」現場での調査依頼です。スパンが大きい梁のたわみによる開閉の不具合です。建物全体の被害は少なく、部分的な被害のみ見られた住宅でした。開閉不良について、ジャッキを使用して調整出来るのではないかとお話ししました。今後について、スパンを小さくするよう柱を設置する事をお勧めしました。

「築15年の住宅で、基礎、数箇所にひび割れがあります。大丈夫でしょうか？」現場での調査依頼です。床下換気口に3箇所、亀裂が見られました。敷地裏が日本海という立地ですので、塩害が心配されます。鉄筋の腐食による中性化の危険性を説明し、早急な補修の必要性をお話ししました。たまたま工務店さんが同席されていたので、調査は円滑に進みました。

「隣の蔵の壁が壊れて、ウチの倉庫を直撃したのだけど・・・」現場での調査依頼です。基本的には当事者間で解決する問題ですが、市で相談に乗れる場合もあるので、連絡して相談する事を勧めました。事前に用意されていた「連絡先が書かれた紙」をお渡ししました。

「建物が傾いていて、大丈夫でしょうか？」現場での調査依頼です。柱、梁の傾斜、挟まった建具が可動不能、床の隆起、外壁の崩落、天井の落下と、建物全体に被害が出ていました。目に見える傾きがありますので、このまま使用する事は危険で、十分な注意が必要です。お近くの工務店にご相談下さい。わからなければ、市区町村担当窓口にご相談下さい。「連絡先が書かれた紙」をお渡ししました。

「改修したばかりの床の下の柱が動くの。大丈夫？」現場での調査依頼です。床束が大引に緊結されていませんでした。また、土台のホゾが柱から抜け出ていました。確かに床束は問題ではありますが、土台の方が最重要問題ですので、土台の補修の緊急性をお話しして、床束は早急に対処する事ではないとお伝えしました。被災直後に施工不備を明確に伝える事は、いたずらに住民の不安をあおるだけだと個人的に判断して、対応しました。

「椎名はね、積雪がないのよ。」日本海に直面している土地柄なので、降雪しても雪が風で飛ばされ、積もらないらしいのです。よってQ&A集に記載されていた積雪の心配をするような相談は全くありませんでした。

相談終了～解散

「スイカ、どうぞ！」相談終了10分前、地元の子供達から薦められました。キリリと冷えていて、その果汁が昼に流した汗を補充し、そのカリウムが体内水分をホールドしてくれるような、希にない至福を感じました。スイカ恐るべし！椎名住民の皆さまには、本当に何から何まで、お世話になりました。本当にありがとうございました。

「16:00になりましたので、終了です。お疲れさまでございました。」青木班長からお声を掛けて頂きました。山本氏、佐藤氏のチームの調査件数は延べ10棟、私たちのチームは延べ8棟でした。夏の炎天下の中の調査は体力的に大変厳しいものがありましたが、被災された住民の苦勞を考えると全く苦ではありませんでした。全員しっかりとした意義を持ち、対応させて頂いたと思っております。椎谷チームは、ここ現地で解散となりました。もう一泊して明日も相談に望むチームメイトの後藤さん、頑張ってください。そして、ありがとうございました。私たち東京青年は、柏崎市役所に集合して、行き同様に乗り合いして帰路につきました。

感想

「何度も家に来て、見てくれて、ありがとう。」「安心しました！」「相談してよかったです。」今回も、どんな報酬にも勝る大事な言葉を頂いたと思っています。住宅相談の経験をして、応急危険度判定の時とは異なる感覚を得ました。建築士としてのあり方や職能という大きな事もさることながら、まずは私たち青年建築士ができる具体的な事として、被災後の「復興」について配慮しつつ、被災を「予防」する手段を考慮して、住宅の設計・施工に従事していくべきであると思いました。そして、一建築士として、東京建築士会青年として、建築士会連合会青年として、継続して努力して、活動していきたいと思います。また、一人でも多くの青年建築士が同じように活動して頂きたいと切に願います。最後に、椎名住民の皆さま、厳しい生活が続きますが、希望を忘れずに、頑張れ！！

以上です。

倒壊した蔵（柏崎市）



倒壊した蔵（柏崎市）



新潟県柏崎市「椎谷」



柏崎の情報「陽だまり」HPより掲載